

## 上越沖メタン活動域における微地形、浅部構造調査について(その2) - NT0809 航海 DAI-PACK マッピング -

### Sub-bottom profiling and side-scan-sonar record by DAI-PACK system during Hyper-Dolphine/NT08-09 cruise off JOETSU, NIIGATA, JAPAN

# 上嶋 正人 [1]; 佐藤 幹夫 [2]; 西村 清和 [3]; 岸本 清行 [4]; 弘松 峰男 [5]; 松本 良 [6]

# Masato Joshima[1]; Mikio Satoh[2]; Kiyokazu Nishimura[3]; Kiyoyuki Kisimoto[4]; Mineo Hiromatsu[5]; Ryo Matsumoto[6]

[1] 産総研・地調; [2] 産総研・地調; [3] 産総研地質情報; [4] 産総研; [5] 千葉大 地球生命圏科学; [6] 東大・理・地球惑星  
[1] IGG,GSJ,AIST; [2] GSJ,AIST; [3] IGG, AIST; [4] GSJ, AIST; [5] Earth Interior Dynamics, Chiba Univ; [6] Earth and Planetary Sci., Univ. of Tokyo

2008年4月29日~5月21日の「なつしま/ハイバードルフィン」による日本海、富山トラフにおけるNT08-09航海において、2日間、2地点で深海底構造・微地形音響探査パッケージ DAI-PACK (Deep-sea Acoustic Imaging PACKage) によるマッピングを行なった。5月5日に上越海丘南部(HD#754)で、5月7日午前に海鷹海脚北部(HD#831)でBox調査を行なった。昨年度のNT07-20航海に引き続いての調査で合計5地点で調査ができたので合わせて報告する。

また、使用した装置の概要については昨年報告したので省略する。

HD#829のサイドスキャンソナーマッピングの例では、画像下部に細長い形のラフな微地形を示す領域が存在する。南から3本目のサブボトムプロファイラの記録例では、測線の中央付近に数mの高度の崖が見られる。南から6本目の例では東よりに反射強度の強い部分が続いている。

昨年度のNT07-20航海のHD#762ダイブでハイドレートのブロックが見つかった場所からKY05-08航海中亡失したピストンコアまでの連続した海底ビデオ映像を得ているが、今回それを概略合成した。ハイドレートブロックとコアラのおおよその位置、その間の概略距離は確認できているが、相変わらずサイドスキャンソナーの画像では判定が困難である。